

令和五年十二月号

神の旅

佐怒賀正美

家郷なり 雑草叢あらくみやまの枯れきほふ

しこの醜草しうくさとて収まりぬ枯の景

セルフレジに首ひねりつつ神の旅

老境のとばくち蜜柑剥き合へる

家郷とはこころの秘色花八つ手

令和五年十一月号

醜草

佐怒賀正美

雨冷やくちびるの裏厚くなる
跨道橋の灯火遙かや虫すだく
霸権めく無茶ぶり背高泡立草
村墓を取り巻きそよぐ穰かな
醜草しにくさ蔓草秋の勢ひを余すなく

令和五年十月号

青海波

佐怒賀正美

工場区なるに湧き継ぐ虫のこゑ

「入院案内」名編集や虫すだく

名月やソーラーパネルの青海波

朝涼や樹霊紗をなす奥の院

入院近き父二十世紀食らふなり

令和五年九月号

高野山

佐怒賀正美

高野八葉芯に日盛りの大塔
壇上伽藍に白雲と夕蟬と
万霊は樹液の香なり朝涼し
朝涼や樹霊紗をなす奥の院

七月十六日は石原八束忌なれば

陶枕いづこ巴里に老師持参せし

令和五年七・八月号

入道雲

佐怒賀正美

渚なす琉金の尾や夜の書齋
純正品運ぶトラツク薔薇の昼
墓鳴くや不条理の世の断裂に
怪力乱神巨木の栗の花
パントマイム入道雲の揉み応へ

令和五年六月号

師 恩

佐怒賀正美

シエルトーに非ず地下まで造り滝

ルーマニアの俳画家・俳人イオン・コッドレスク氏来日。故・福田眞久先生に捧ぐ

師恩とや新緑二十年ぶりの再会

「岳」四十五周年記念祝賀会

遠 近 法 無 縁 夏 岳 の 意 欲

六義園・心泉亭にての句会

銀 梯 に 緑 雨 の 松 を 整 ふ る

雨 に び く ん 紫 陽 花 の 葉 は 猫 の 耳

令和五年五月号

いびつ

佐怒賀正美

揚雲雀自由がいびつ
いびつ
宇宙から人還る日や亀鳴きぬ
隴夜やスマホ隸従させる指
ニケの像めく均衡の老桜
四月馬鹿黒き胸底舐める国

令和五年四月号

ゴドー

佐怒賀正美

蛇穴を出でてゴドーに懐きけり
戦車にもデコイある世や鳥雲に
足拭いてまた弄りたく春の泥
泥んこに立つ春の泥握り立つ
工場の果ての微風や蝌蚪の国

令和五年三月号

元気

佐怒賀正美

白梅や姫歌で来る幼女と犬
犬の名は元氣ましてや春の風
雛遊びはるか火球の通りし世
天体を愛撫せんとやミモザ湧く
濃陽炎抜け矢印のこれきり

令和五年一・二月号

かくれ鳥

佐怒賀正美

枯葦野にかそけき声のかくれ鳥
天乗せてユリイカといふ冬薔薇
星巡る舟は「きぼう」や除夜の鐘
木枯や猫くつついて坐像なす
冬夕焼神隠しから出て笑ふ